

第12回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(令和3年4月13日開催)

主な意見、指摘事項と対応について

1. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項	対応
<p><干潟表土仮置き状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	

2. 令和2年度冬季定期環境モニタリング調査実施状況報告

意見・指摘事項	対応
<p><水質・水象></p> <ul style="list-style-type: none"> ・P5 R3.3月19日から26日にかけて上層のD0溶存酸素量が低下し0mg/Lはどのような解釈をしたらいいか。下層も22日から低下しているが上層のほうが早く低下している。3月で0mg/Lは到底考えられず26日からは回復しているのできれいに変動しているのに計器のトラブルとしては言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事状況の確認や時間軸のレンジを広げた分析をしてみます。
<p><干潟地形></p> <ul style="list-style-type: none"> ・P4橋脚周辺の地形変化データはあるか。吉野川だと各橋脚の前後、左右の流れの傾向もチェックをしていた。地形も戻ってきているので今後の参考としてそういった傾向も見た方が良く考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査は干潟の形状変化を計測していますのでP4橋脚付近の調査結果はありません。P4橋脚付近は作業船の稼働確認のため、不定期で深浅測量を行っており、堆積していないことは確認をしています。
<p><植物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	-
<p><鳥類></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のデータで明瞭になっているのがカモメ類、ウミネコが秋と冬で飛翔高度の変化が出てきて高くなっている。カモメ類、ウミネコに注目していない種だったが、今後注視していく事。また、シギ・チドリ類の確認ができなかったとのことだが、全国的に確認個体数が減少している。この調査だけだと工事の影響があるか判断し兼ねる。来年3月に総括として総合評価をするとのことなので、その時までには近隣の干潟のシギ・チドリ類の動向を比較して、増減傾向を参考に工事の影響を判断したい。可能であれば下流側、大師橋との間、大師橋の上流側で経年変化が確認できるデータの収集整理をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上流の大師橋は更新工事を実施している首都高速道路(株)が調査をされていることから、川崎市さんを通じてデータを入手し、データ整理をしたいと思います。
<p><鳥類></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シギ・チドリ類だけでなくユリカモメも減少しているようなので、多摩川だけなのか。東京湾全体なのか比較してみる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認します。

意見・指摘事項	対応
<p><魚類></p> <ul style="list-style-type: none"> マサゴハゼ、エドハゼ採集方法はどのようなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 10m×10mのコドラート内のタイドプールを金魚網で10分間採集する方法で個体数を計測した。

3. その他

意見・指摘事項	対応
<p><築造部の埋戻し形状について></p> <ul style="list-style-type: none"> 埋め戻し材の山砂と表土の区分け、構成について確認したい。 当初より埋め戻し面積が増えているため、厚さが薄くなるということか。 表土が安定的に残る保証がないので、表土がうまく広がっていく配慮は何かないか。当初の考えでは干潟の材として適しているため、残しておいた材なので流れ去ってしまったらいかかなものか。山砂だけが残るのは最悪のシナリオになる。 将来的な河床形状を見込んで橋桁付近の水流分岐具合から、山砂で埋戻す部分と橋梁付近の仮置表土を利用する部分に分けて、表土材が中州に広がることも期待できる可能性がある。また、盛土に用いる山砂は多摩川の自然砂よりも粒径が荒いと考えられ、表土の供給はあくまで上流から堆積するものに期待する必要がある。 秋季の台風によって砂が流された場合に備えて、仮置土を少し保管しておくことは可能か。 埋戻しをした後、台風シーズンを過ぎたところである程度の地形が見えてくると思う。その時に手直しができないとなると厳しいと思われる。 現段階で細かく検討せずに台風前に山砂と仮置土で埋め戻し、上流部に表土を少し盛っておき、台風等で本来のあるべき自然の姿に戻るのを待つべきではないか。 法面勾配が計画では、1:10、1:3とあるがそれでも勾配はきつく、安定しないと予想され、早い段階で変化していく事を前提にモニタリング計画を作っていく必要があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表土は千葉県の仮置土で厚さは15cm、その下層を山砂とする予定です。 当初に浚渫した矢板部を中心に表土を埋め戻したいと考えています。計算上、約10,000m²分の仮置土があり、やや下流側が不足するが、ほぼまんべんなく分布できるのと考えています。 現在の計画では表土をまんべんなく埋め戻す予定です。流れたとしても下流のポケットに埋没されていくので干潟にはとどまると想定しています。 本工事の技術提案で「まんべんなく」と表記している部分もあるため、川崎市と協議して、形状を決定したいと思います。 一度埋めると作業船が入れる水深を確保できなくなるため、追加埋め戻し作業は困難です。 今までの傾向ですと、2年に1度の頻度で大型台風襲来があるので、台風によって工事で埋め戻す部分の河床が埋まってしまうと予想しています。そのため、リスク回避として作業船が進入可能な台風時期前に施工を完了する予定で進めています。 供用後のモニタリング計画作成にあたり配慮させていただきます。

以上